



「動きの連続」に着目したダンス指導力向上のための資料映像の作成と活用

著者	山崎 朱音
発行年	2017-06-14
出版者	静岡大学
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025999

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：13801

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2016

課題番号：24700620

研究課題名(和文)「動きの連続」に着目したダンス指導力向上のための資料映像の作成と活用

研究課題名(英文) Preparation and application of the moving image focused on Preparation and application of the moving image focused on a sequence of movement for improvements of dance instruction

研究代表者

山崎 朱音 (Yamazaki, Akane)

静岡大学・教育学部・講師

研究者番号：40609301

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、創作ダンス授業における「学習内容」とその指導方法を明確にするとともに、「動きの連続」に着目した資料映像の作成を行なった。質問紙調査より、創作ダンス授業を実施するための課題が抽出された。学習者の即興表現を引き出すためには、指導者はテーマや題材ごとの「ひと流れの動き」を明確にするとともに、その指導には「連続性」「質感」「変化」の視点を持つことが必要であることがわかった。それらを踏まえた資料映像を教員の実技研修等で活用することにより、学校現場の課題が解決され、ダンス指導力の向上が期待される。

研究成果の概要(英文)：In this study, the author clarified the learning content and its instruction method of “creative dance” and made a moving image focusing on sequence of movements. From a questionnaire survey, the author identified some additional agendas for implementation of lessons of “creative dance”. Especially, the author found that the instructors need to give guidance of “a sequence of movement” (the author called “Hitonagare no Ugoki”) in each dancing theme and have a view of “continuousness”, “texture”, and “tempo fluctuation”, to bring out an extemporaneous expression from students. The moving image that shows abovementioned instruction method is expected to contribute improvements of instruction as well as solutions of agendas in schools.

研究分野：身体教育学

キーワード：創作ダンス 即興表現 学習内容 ひと流れの動き 動きをみる観点

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年告示の学習指導要領より、学校体育においては中学校 1・2 学年で「ダンス」が必修化(文部科学省, 2008)された。これにより、男女全ての生徒にダンスを経験する機会が保障されたと同時に、指導経験のない教員がダンス授業をする機会が増加することになった。つまり、全ての教員にダンス授業をするための実践的指導力の向上が問われることになったのである。特に男性教員の場合、ダンス担当率は平成 19 年度までは 10% に留まっていたが、学習指導要領完全実施となる平成 24 年度には 55% まで増加すると見込まれている(中村, 2009)。この現状に対して、指導への不安の声やダンス必修化への否定的な意見が聞かれている(中村, 2009)。「ダンス」は、テーマ・題材のイメージやリズムの特徴を捉えて自由に表現する「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」と、伝承された「フォークダンス」で構成されているが、特に学校現場では「創作ダンス」の学習内容が不明瞭とみなされ、指導が困難になっている現状がある(寺山, 2007)。これに応えるべく、新学習指導要領解説書等には、「多様なテーマと題材や動きの例示」がされた(文部科学省, 2008; 村田・高橋, 2009)。しかし、今なお指導の困難さが指摘されていることから、ダンス経験のない教員には創作ダンス指導のための具体的なイメージが浮かびにくい表記にとどまっていると考えられる。このように、現職教員の不安が解消されぬまま、ダンスが必修化され、指導力の向上が叫ばれているのである。

「創作ダンス」授業の指導力向上に向け、これまでも多くの研究がされてきた。中でも山崎ほか(2011)は、創作ダンス授業の熟練指導者の指導の特徴の明確化を行なった。しかしながら、その特徴を現職教員への伝達の仕方考えた実践的な研究が行われておらず、ダンス指導力の向上を求める現場のニーズとの乖離が生じているといえる。

2. 研究の目的

本研究では、「創作ダンス」に焦点を当て、舞踊教育専門家の「学ばせたい動き方」を明確化するとともに、ダンス指導を苦手とする教員、特に踊った経験のない教員がダンス指導に取り組みやすくなるための方法を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 中学校現職教員を対象とした質問紙調査を実施し、ダンス授業の実態と現職教員が抱えるダンス指導の問題点、現職教員と舞踊教育専門家間にみられる専門的知識の違いを明らかにした。

(2) 舞踊教育専門家が作成した、現在一般に販売されているダンス指導法の文献と DVD を考察資料として、創作ダンスで「学ばせたい動き方」とは何かを明らかにした。

(3) 動きを引き出す指導場面での指導者の動きと指導言語を手がかりにし、典型教材における「ひと流れの動き」と指導方法を明らかにした。

(4) 教材「新聞紙を使った表現」の指導案を提案し、中学校 1 年生に授業実践を行い、これまでの研究の結果から得られた「学ばせたい動き方」を映像化し資料映像を作成した。

4. 研究成果

(1) ダンス授業の実態(実施種目・現職中学校教員のダンス授業に抱える問題点)

静岡県内の現職中学校教員に対して実態調査を行った結果、対象とした現職教員の所属校が授業で取り扱っている種目は「創作ダンス」と「現代的なリズムのダンス」であった。また、教員がダンス授業をする際に「指導者自身の指導力不足」「生徒の興味」「授業展開の仕方」に対する不安感をもっていることがわかった。さらに、ダンス種目には含まれない内容(例えばエアロビクスなど)をダンス授業で取り上げるなど、教員のダンス領域の種目特性への理解不足が存在することが明らかとなった。このことから、ダンスの特性やダンスで学習者に何を学ばせるのかを現職教員へ伝えていくことの必要性が指摘された。そのためには、教員が自らダンスの特性を体験できるような実技研修の場や資料映像等の提供が必要であることが示唆された。

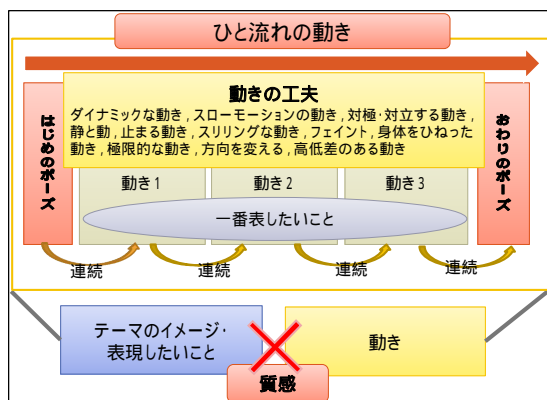
さらに、「創作ダンス」の授業において、授業指導歴のある現職教員がどのような視点を持って学習者の動きを指導・評価しているのかについても検討した。その結果、指導経験年数の長い教員でも、舞踊教育者(学習指導要領等作成者)や指導書等が重視している「動きの力性を変化させる」や「動きを連続させる」観点では、学習者の動きを捉えられていないことがわかった。このことは、学習指導要領・指導の手引の中で重視されている「ひと流れ」や「ひとまとまり」が現職教員には理解されにくい点であること示していると推察される。そのため、現在使用されているものよりもさらに簡易な言葉の使用や、教員の視覚にダイレクトに届くような映像資料を提供することが必要であることがわかった。

(2) 「創作ダンス」の「即興表現」の授業において目指される動き

現在販売されているダンス指導法の文献と DVD を資料として、「ひと流れ」とは何か、そこに必要なダンス技能(動きの工夫の仕方)は何かを明らかにした。さらに、「ひと流れの動き」をより具体的に理解するための基礎的な資料を作成した。その結果、「ひと流れの動き」は、一番表したいことを中心とし、最初と最後にポーズをつけた一連の動きであることがわかった。さらに、「ひと流れ

の動き」はただの動きの組み合わせや連続だけでなく、テーマから得られるイメージと動きをかけあわせ、質感を伴う表現をすることが重要であることがわかった。そのため、より具体的に「ひと流れの動き」を把握するためには、テーマや題材ごとの「ひと流れの動き」を考えていくことが必要であることがわかった(図1)。

図1 「ひと流れの動き」の構造



山崎ほか(2015)

(3) 典型教材における「ひと流れの動き」と指導方法

「創作ダンス」の授業において、幅広い発達の段階で取り上げられる教材「新聞紙を使った表現」を例に、この教材における「ひと流れの動き」とはなにか、「ひと流れの動き」を引き出すために指導者がおさえるべきこととはなにかを考えるための視点を検討した。ここでは、動きを引き出す指導場面での新聞紙の扱い方と指導言語を手がかりにした。その結果、「ひと流れの動き」を検討するには、「連続性」「質感」「変化」の視点をもつことが必要であることがわかった。さらに、学習者相互の活動場面での「ひと流れの動き」を引き出すための指導方法として、指導者が動きを引き出す場面において、指導者は新聞紙のもつ質感を十分に理解した上で多様な新聞紙の質感を経験できるような新聞紙の扱い方を提示すること、また指導言語と掛け合わせながら提示すること、そして多様な質感の新聞紙の動きを組み合わせることで連続性を持たせることを意図的に行うことが必要であることがわかった。

(4) 「動きの連続」に着目した資料映像の作成

これまでの研究で明らかになった事項を踏まえ、教材「新聞紙を使った表現」の指導案を提案し、中学校1年生に授業実践を行った。この実践により、学習者の質問紙より学習者が「ひと流れの動き」を理解することができたこと、またそれが具体的な動きとなり表現されていた。このことから、本研究で明らかになった「創作ダンス」授業の典型教材「新聞紙を使った表現」における「ひと流れの動き」(学習内容の明確化)と、学習者への提示の仕方(指導方法)が示されたといえ

る。さらに、2人の学習者の理解を得て、この学習者による「ひと流れの動き」を撮影し、現職中学校教員が把握しやすい資料映像の作成を行なった。

(5) 本研究の位置づけと今後の課題

本研究により、現職教員の創作ダンス指導における課題を抽出すること、またその課題に心えるべく、創作ダンスにおける「学習内容」と「指導方法」を明らかにすることができた。先行研究にて指摘されていた「動きの連続」「連続性」が、学習内容として、また指導する際のポイントであったことから、本研究の成果はこれまでの研究の基に行なわれた発展的な研究であったといえる。また、研究成果をまとめた授業実践において、学習者の「ひと流れの動き」を引き出したこと、またそれらを学習者自身が理解できたことから、一定の成果を得られたと考える。

今後は、作成された指導映像をどのように現職教員へ提案していくのかを考え、ダンス指導力向上に寄与できるよう、研究を進めていきたい。

<引用文献>

- 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説・東京書籍：東京。
 村田 芳子・高橋 和子(2009)「表現・創作ダンス」の内容と指導のポイント、女子体育第51巻第7・8号、pp.10-11。
 中村 恭子(2009)中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容 - 平成19年度、20年度、21年度および24年度の年次推移から -、(社)日本女子体育連盟学術研究第26号、pp.1-16。
 寺山 由美(2007)「表現運動」を指導する際の困難さについて - 千葉県小学校教員の調査から -、千葉大学教育学部研究紀要第55巻、pp.179-185。
 山崎 朱音・村田 芳子(2011)、ダンス授業における指導言語と発言に至る思考の特徴に関する研究 学習者・逐語記録・指導者に着目して、スポーツ教育学研究、30(2)、pp.11-25。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

山崎 朱音、村田 芳子、朴 京眞、創作ダンスの指導における指導言語の意味と動きをみる観点：教材「新聞紙を使った表現」を対象に、体育学研究、査読有、59巻、2014、203-226

DOI：10.5432/jjpehss.13004

山崎 朱音、ダンス授業実践に向けた実技研修の在り方 - 静岡県内中学校教員のダンス授業の実施状況の把握を通して -、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読有、21巻、2013、73-81

DOI：10.14945/00007377

〔学会発表〕(計7件)

山崎 朱音、学習者に身に付けさせる「ひと流れの動き」の検討、第36回(通算64回)日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門全国創作舞踊研究発表会、2016年12月19日、ぎふ清流プラザ(岐阜県岐阜市)

山崎 朱音、村田 芳子、朴 京眞、「ひと流れの動き」に着目した創作ダンスの指導、日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会、2015年9月20日、日本体育大学(東京都世田谷区)

山崎 朱音、村田 芳子、朴 京眞、伊藤 茉野、創作ダンスの「即興表現」における学習者の動きを引き出す指導 - 「ひと流れの動き」に着目して、日本体育学会第66回大会、2015年8月27日、国土館大学(東京都世田谷区)

Yamazaki A, Murata Y, Park K, Implementation and staging from the perspective of observing movement, as interpreted from dance teachers' language, ECSS Amsterdam 2014, 2014.6.1, Amsterdam (Netherlands)

山崎 朱音、創作ダンス指導時の動きをみる観点 - 静岡県内中学校教員の調査から -、第33回(通算61回)日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門全国創作舞踊研究発表会、2013年12月21日、とりぎん文化会館(鳥取県鳥取市)

山崎 朱音、村田 芳子、朴 京眞、ダンスの指導言語の意味から読み解く「動きをみる観点」の具体化と段階化 - 教材「新聞紙を使った表現」の指導を例に -、日本スポーツ教育学会第33回大会、2013年10月18日、日本大学(東京都世田谷区)

山崎 朱音、ダンス指導者の指導言語の背後にある動きをみる観点と知識、日本体育学会第63回大会 体育心理学専門分科会(招待講演) 2013年8月24日、東海大学(神奈川県平塚市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 朱音 (YAMAZAKI, Akane)

静岡大学・教育学部・講師

研究者番号: 40609301